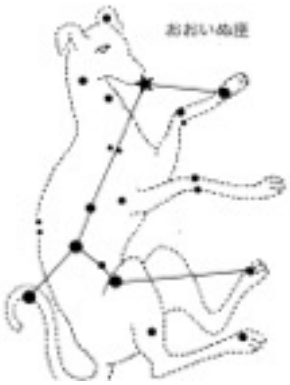
４年生のみなさんへ　　伊勢原市立子ども科学館

# クルリンと ほしぞらさんぽ　２月号

## 寒いけどきれいにみえる冬の夜空

冬の星座が正面に見える季節になりましたね。屋外に出て空を見上げたその時に、すぐにオリオン座が目に飛び込んできますよ。「さむいサムイ」なんて言っていないで、ほしぞらさんぽにでかけましょう。

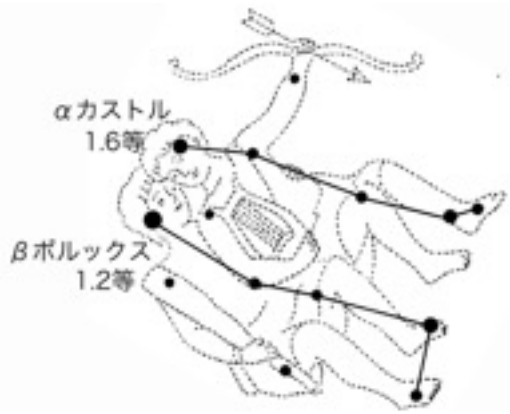
## おおいぬ座とふたご座




２月になって冬の星座の全体が見えてきましたね。おうし座とオリオン座は１月によく観察できたでしょうか。２月に見るふたご座とおおいぬ座も冬の星座の主役ですね。

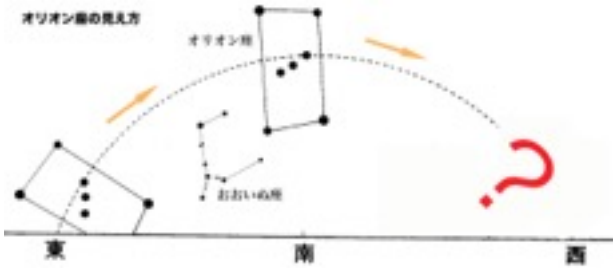
おおいぬ座の見つけ方は？… オリオン座の左下にシリウスが輝いていますよね。シリウスはおおいぬ座のα星です（アルファ星=星座の中で一番明るい星）。シリウスのすぐ下には散開星団M41がいて、目のいい人ならば肉眼でもごちゃごちゃしている星のかたまりが見つかるでしょう。

オリオン座の左上にあるふたご座は２つの明るい星が並んでいるので見つけやすいですね。２つの星、カストル1.6等とポルックス1.2等が並んで輝いていますが、なぜか星図では暗い方のカストルがα星で明るいほうのポルックスがβ星なのです。星座の中で一番明るい星がα星のはずなのに変ですね。機械で明るさを測る技術がなかった時代に見間違えたのでしょうか？　なぞです。




## オリオン座のかたむきが違うなあ

１月に見たオリオン座とはかたむきが違うと思いませんか。前は東の空に斜めに見えていましたよ。でも２月に入ったら、ほぼ南の空にまっすぐに立っているように見えているでしょう？。




同じようなことはおおいぬ座でも見られます。１月にはおおいぬ座は見えていませんでしたが、いまはオリオン座の左下に、頭を上にして西を向いた上左の図のような姿で見えていますね。

この後、オリオン座やおおいぬ座のかたむきがどう変わるのでしょうか。予想してみましょう。その予想が正しいかどうかは、星座早見盤で確かめることができますが、どうすればいいか分かりますね。

## カシオペヤ座が変わってきたよ

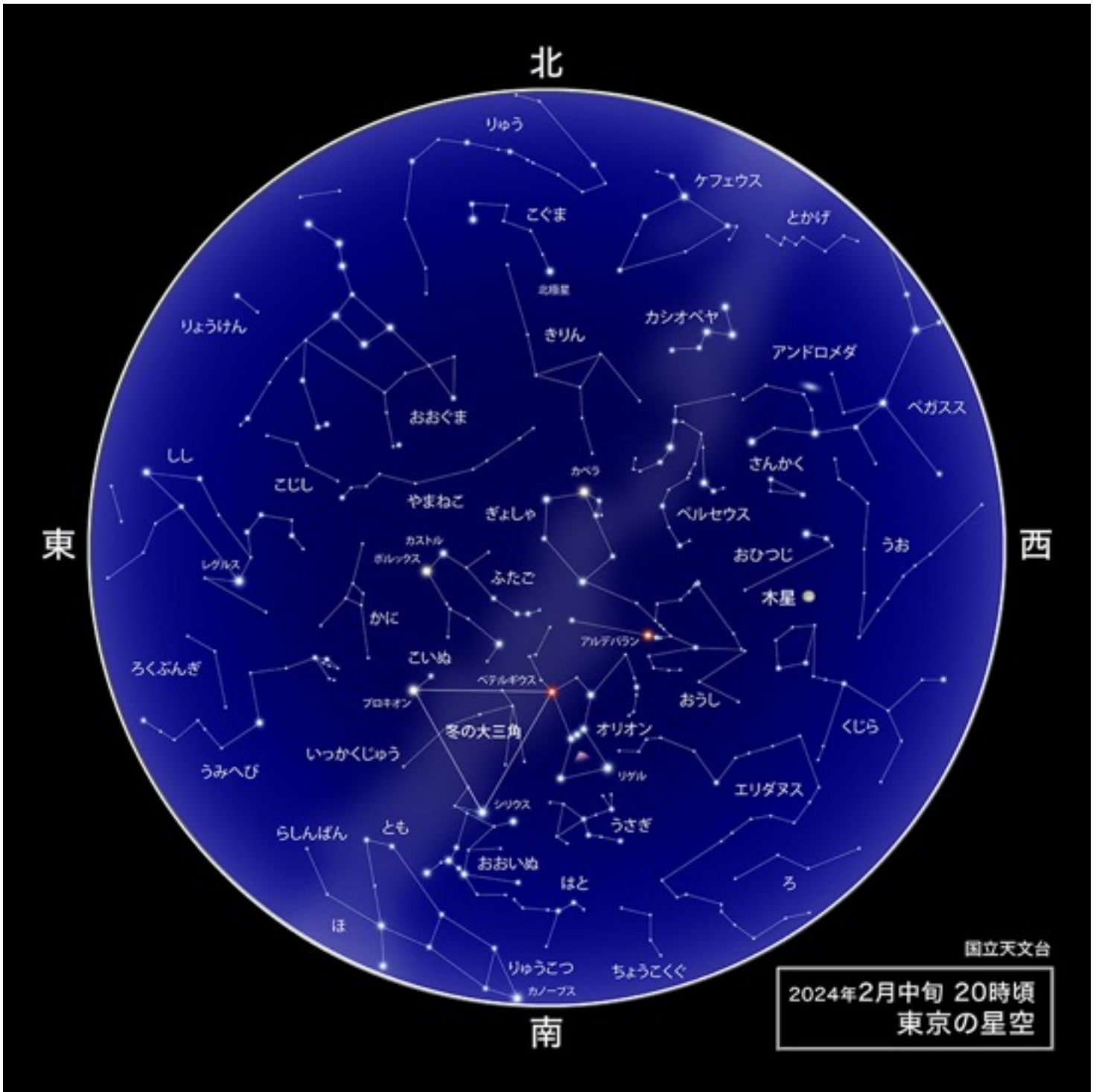
北の空にはカシオペヤ座が見えていますが、12月１月のころとは見える位置やかたむきが違ってきましたよ。

１月にはカシオペヤ座のWの字がほぼ下を向いて開いていましたが、２月にはWの字は下の図のようにやや東を向いていますね。このあとはどう変わるのでしょうか。星座早見盤を動かして説明してみましょう。

北極星をはさんでカシオペヤ座の反対側には北斗七星のひしゃくの部分が見え始めました。北斗七星は星座の名前ではありませんよ。北極星が属している星座・こいぬ座は明るい星がないので、伊勢原の空では見にくいけれど、ガンバって探してみてね。双眼鏡があれば見えるでしょう。

**満月も大きさ さまざま**

地球の周りを回っている月は、真円ではなくてゆがんだ楕円だえんの軌道きどうを回っています。そのため満月になる時に地球から距離が変わって、大きい満月とか小さい満月とかになっています。

２月には最小の満月がみられます。24日午後９時30分に満月になりますが、その時の月の中心と地球の中心との距離は約40万6000kmで、月が遠くまで離れるので、見える満月は今年最も小さい満月になります。一方、10月17日の満月の距離は約35万7000kmで、今年最も地球に近い満月、スーパームーンになります。

２月24日の満月は、10月17日の満月に比べて見た目の直径が約12%小さく、面積では約22%少ないそうです。小さい満月と大きい満月を２つ空に並べて比べられれば分かるでしょうが、そんなことはできませんから、見た目では大きいのか小さいのか分からないでしょう。もし写真にとる時は、レンズのズーム倍率を同じにしてとらないと比べられませんよ。